



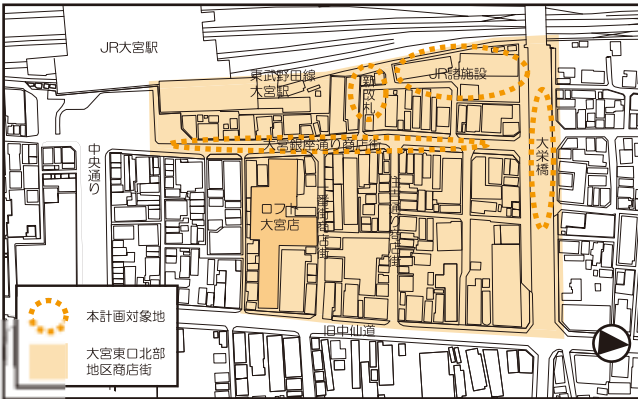
Rambling town Miyaichi

回遊性のある商店街のための全体計画に関する研究
一埼玉県さいたま市大宮東口北部地区商店街におけるケーススタディー

駅ビルのリニューアルや、郊外型ショッピングセンターのテーマパーク化等、商業環境の大きな変化の中、多くの駅前中心市街地商店街は危機的状況に陥っている。一方、情報化社会にあり、通信技術の著しい進歩は、自分が世界の何処にいても同じ情報、同じ商品を得ることが出来る環境が整いつつある。現在でも地域に根付き、強い集客力のある商店街が存在しているのも事実である。街にヒューマンスケールの商店街が不要になったのではなく、従来のままでは消費者の生活の中で必要性が感じにくくなってきているのである。日常生活を支え、地域に根ざした中心市街地商店街に求められるものは、まちの個性である。ここで手にはいないもの、ここでしか体験し得ない場をいかに提供するかということであり、これからは消費者のライフスタイルに合った、地域性を生かした特徴ある商店街が存在意義を持ち始める。

本プロジェクトは、2003年度より衣袋研究室にて継続的に行われてきた、埼玉県さいたま市大宮東口北部地区商店街による商店街活性化プロジェクト「宮一サミット」における研究を基に設計と条件を抽出し、今後の大宮東口北部地区商店街活性化についての提案を行うものである。

Design condition



■銀座通りアーケード撤去に伴う計画 ■銀座通りの一方通行化 ■ポケットパークの設置（商店街内の空地の有効利用） ■駐輪場問題 ■回遊性のある商店街 ■武蔵野銀行駐車場の活用方法 ■空き店舗対策 ■清掃問題 ■タクシーの渋滞 ■来街者の素通り ■街区の内側からの活性化 ■大宮橋高架下の活用（商店街のアイストップとして人々のたまる空間） ■ヒューマンなスケールの横丁 ■東武野田線新改札設置 ■路上駐車帯の確保 ■蛇行斜線 ■緑化 ■ストリートファニチャーの設置・・・

挙げられた問題点から、以下の4項目をコンセプトに計画・設計を行った。

■回遊性のある商店街

現在の宮崎東口北部地区商店街は、直線的で人の流れが激しく、来街者は目的の場所へ向かって歩行するのみとなっている。特に大宮ロフトを境とする南北の入りには著しい偏りがある。歩行者の素通りのための商店街ではなく、商店街全体へと人々が流れることで各々の商店街の活性化を促す。

■買物＋時間消費空間の必要性

買い物や飲食の目的以外に、回遊や滞留の目的を果たす時間を消費するような空間が商店街に求められている。現在、通路と化している商店街に滞留させ、過ごす時間を増加させることは、新たな消費へとつながり、活性化への糸口となる。

■子供を介した近隣地域と商店街のかかわりの構築

商店街の来街者は、若者や会社員だけでなく主婦・家族層も厚い。子供を中心とした日常的な機能を商店街内に設けることで、日々の生活の中に商店街が位置付けられることが見込まれる。

■変化する、変化できる風景（半モール・半アーケード化による変化のある風景へ）

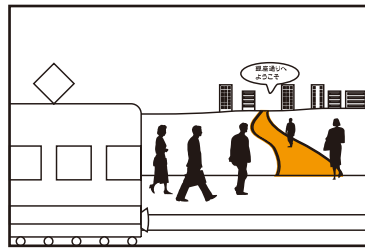
常に変化のある空間は人々を惹きつける。大宮銀座通りのアーケード撤去、共同溝設置に際し、可変性のある仕掛けを組み込むことで、時間をかけて駅前風景を構築し、時間・季節等によって変化のある商業空間を目指す。

project flow



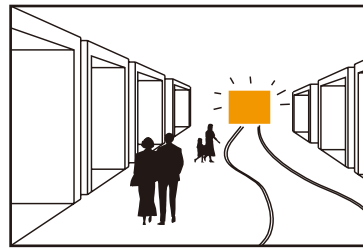
step 1 通りの整備

大宮銀座商店街の基盤整備に伴い、各店舗がおのの好きなようにカスタマイズできるようなアーケードの基礎を埋め込む。
動線の整備により商店街の許容量は増加し、変化のある風景は人々を商店街へと引き込む。



step 2 新しい動線

東武野田線大宮駅北口改札を設置し、商店街に新たな動線を加える。両側からの動線が様々な人の流れを作り出す。



step 3 目的の挿入

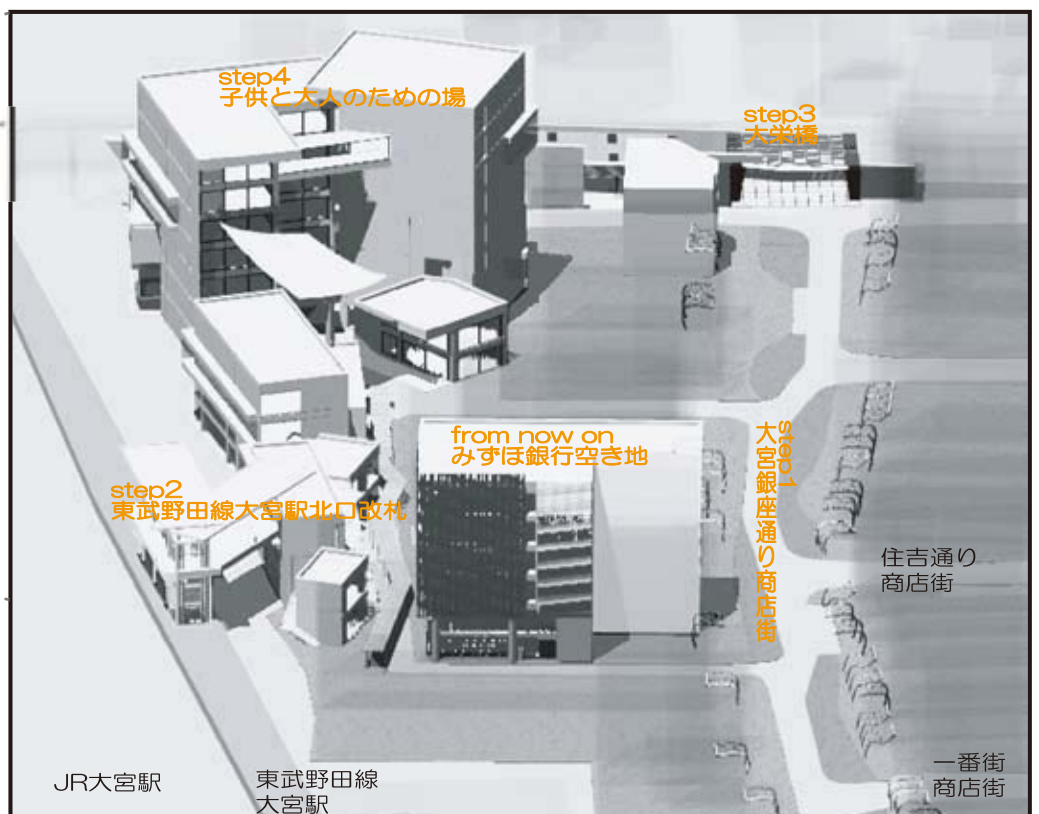
商店街の突き当たりである大宮橋に、来街者が望む施設を加える。いままではただの壁であった大宮橋が、人々を奥へと吸い寄せるための装置となる。



step 4 日常への介入

人々が日常の中で集うことのできる機能を備えた場を挿入する。商店街が日々の生活の一部となったとき、忘れ去られていた、人々と地域の関係性を再構築することができる。

program



step 1 大宮銀座通り商店街

カスタマイズ可能なアーケードが風景を構築していく。また、一方通行に伴い歩道が拡張し、歩行者のための空間となる。強固なるアーケードではなく、各店舗ごとにカスタマイズできるシステムを組み込むことで、時間、季節、年単位の変化が見込まれるとともに、商店主たちの意識改革のきっかけともなりうる。



アーケード：剛性メッシュパネル簡素な曲げ加工
・開放性、軽快さ。
・各店舗の情報を付加することが可能。
・各店舗の個性を示せる。

照明：剛性メッシュ。アーケードとの統一感を持つ。
・開放性、軽快さ。
・アーケードとバンドによって固定され、構造の一部となる。
・各店舗の間の開口に設置。

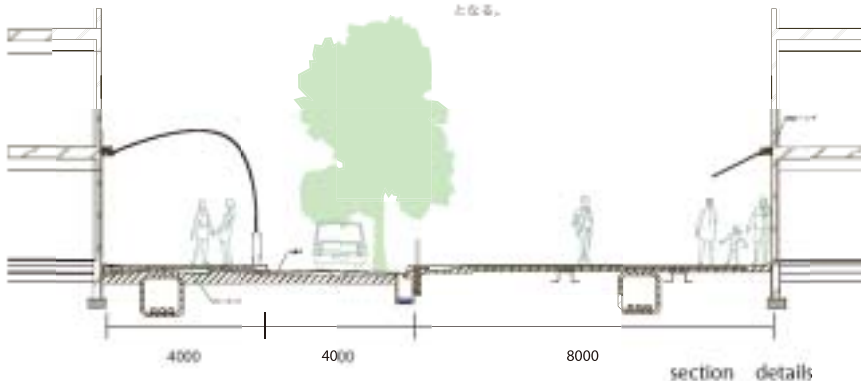


アーケード A
歩道を円弧状に覆うことで、歩行者に対して広がりを感じさせることが可能。

アーケード B
敢えて歩行者に対して迫り出させることで、アーケードに付加した情報をより意識させ、店舗へと導く。

アーケード C
構造柱を店舗の外壁に取り付けることによって開放感を増し、外壁にレールの機能を持たせることで、シャッターと兼用のアーケードとなる。

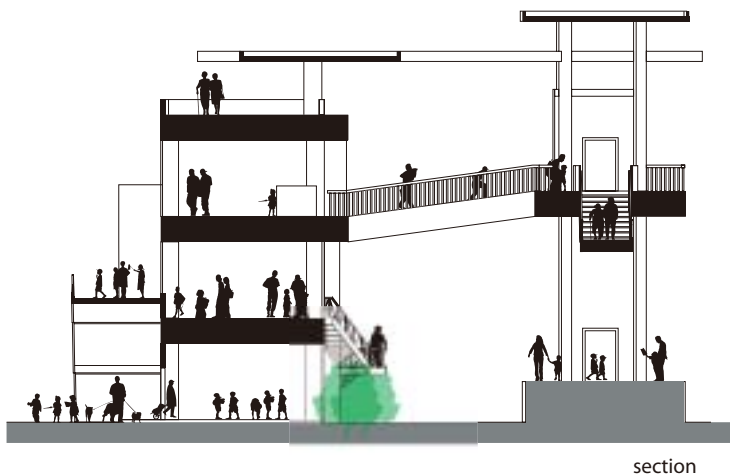
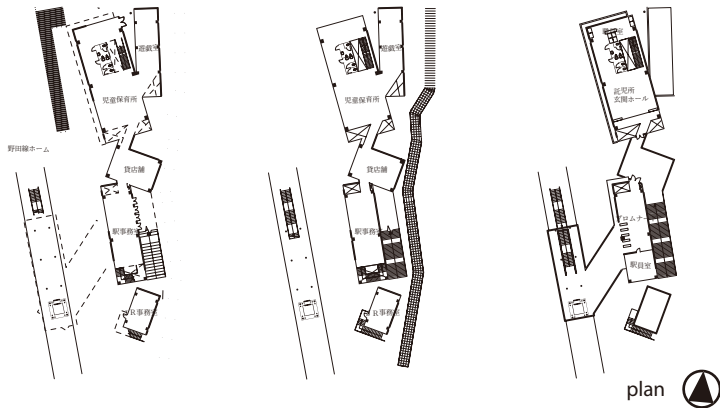
道幅の広い箇所に設置され、人々が憩うためのベンチ、さらにはアーケードの構造の一部となる照明。



oomiya ginza street west elevation

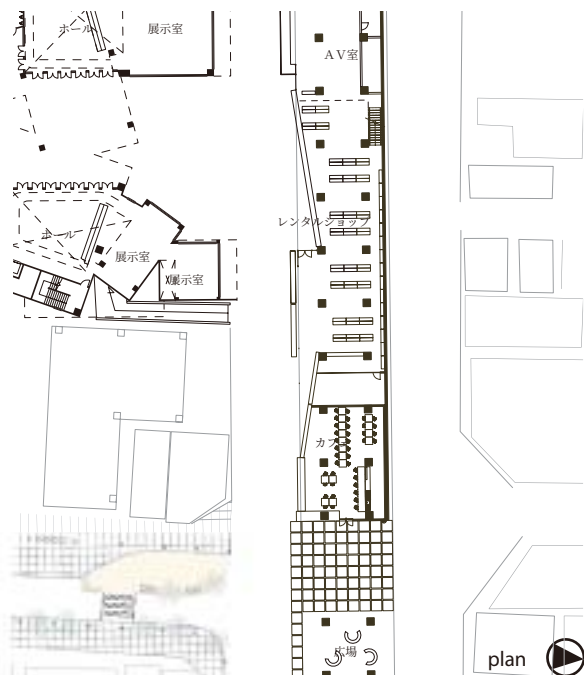
step 2 東武野田線大宮駅北口改札

本来ならば2口以上必要である改札設置案という現実的な問題を基に、商店街への新たな人の流れを作り出す装置として設計を行う。改札を商店街の中央に設置することで、新たな動線と賑わいを商店街の奥まで引き込むことが出来る。



step 3 大栄橋

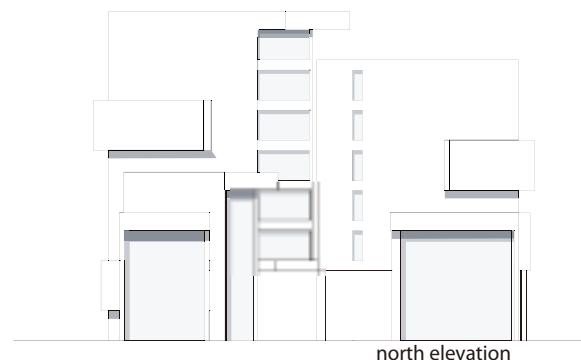
商店街と住宅地を経たて大きな壁となっており、威圧感のある風貌を人々が引き寄せられた、むしろするための空間へリノベーションを行う。大栄橋の高架下機能配置することで、米街者を商店街奥まで引き込み、新たな流れを作り出し、いままで単なる壁であった場を有効に活用することができる。



daieibashi elevation

step 4 子供と大人のための場

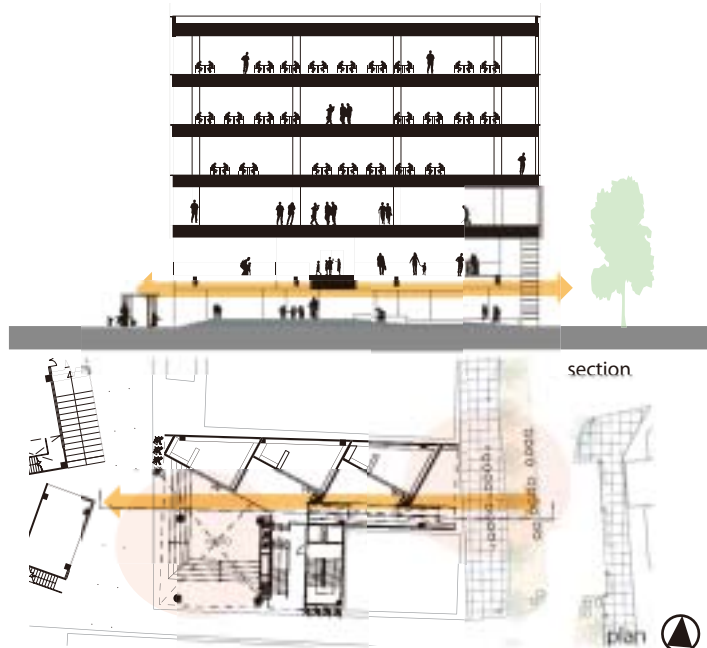
J Rの保線等の業務施設を地域の要の施設へと変化させることで、駅、あるいは中心市街地商店街の活性化へとつながると考える。子供、老人の日常のための空間（学童クラブや託児所、趣味の場）を挿入することで、商店街が日々の生活の一部として機能する。子供が日常を過ごす場を提供することで、両親、祖父母等、様々な人々を巻き込むとなる。子供にとっての原風景を作ること、長い目で見たとき、商店街の利益へとつながる。



from now on ■ ■ ■ ■ ■

商店街が変化したのち、個々の建築も自然と変化してゆくだろう。たとえば、みずほ銀行空き地。ここは裏であった面に改札ができることで、うらのない、オモテとオモテの建築となるだろう。また、野田線の改札が成功すれば、JRの新たな改札も繋がってゆくだろう。商店街はお互いの影響を受けながら刻一刻と変化を続ける。

ex. みずほ銀行・・・



通り抜け空間や多様なオモテの誕生



商店街が、日常の場の一部へと戻ることができたとき、継続的に受け継がれる、かけがえのない空間となる。